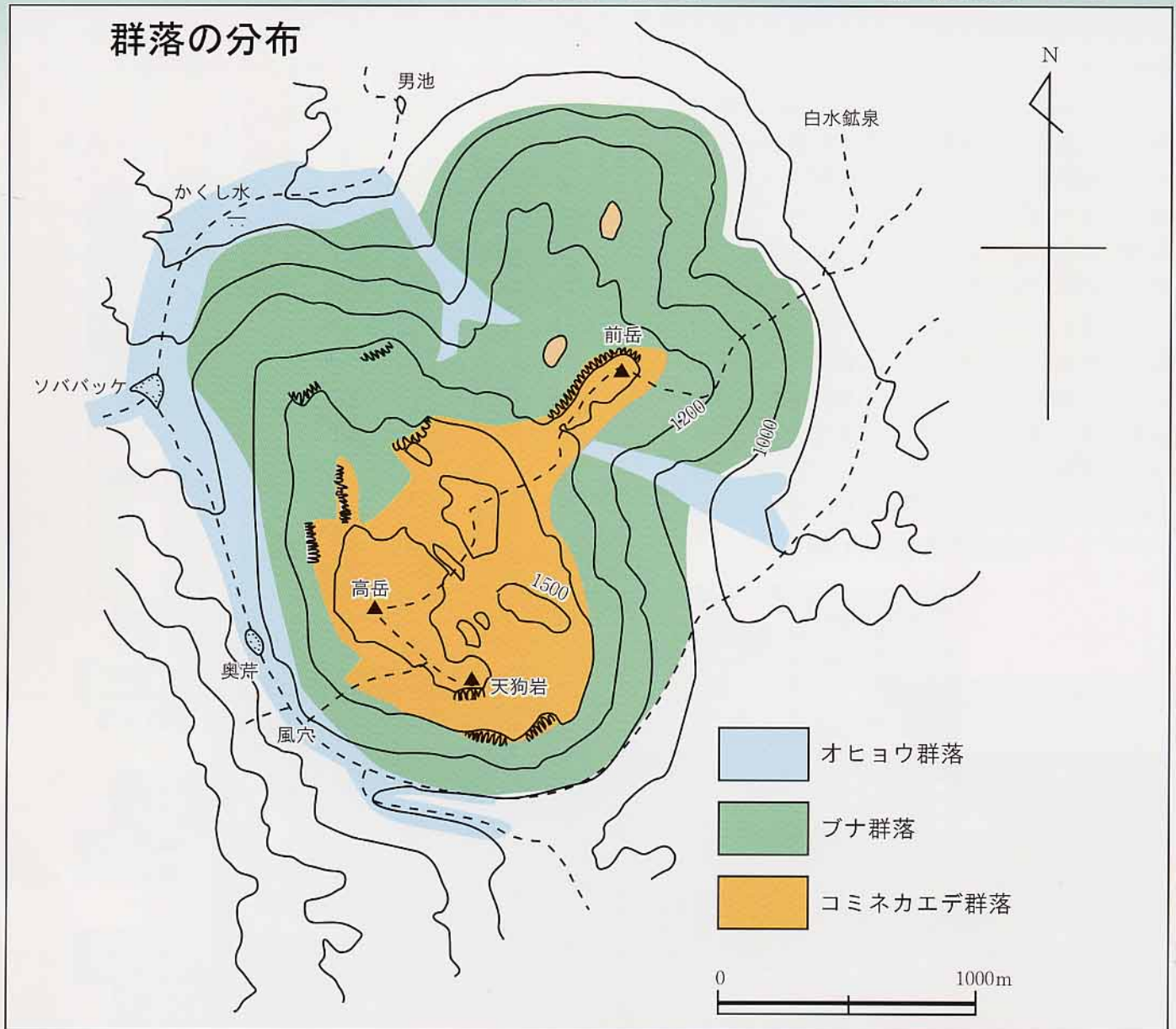


神秘さを秘めた 黒岳の自然林



オヒョウ群落

(オヒョウ・タイミンガサモドキ群集)

尾根と尾根に挟まれた谷地形のところではオヒョウ、アサガラ、イタヤカエデ、チドリノキ、ニシノヤマタイミンガサ、ジュウモンジシダなどが谷特有の群落をつくっています。

谷地形に特徴的なオヒョウ群落

なだらかな起伏をみせる九重火山群の中にあって、どうしたことか黒岳だけは角張った岩が無造作に重なって険しい山塊をつくっています。山をおおう植生も周辺部のススキ草原とは景観を異にし、主にブナ科やカエデ科、ニレ科、カバノキ科の落葉樹が大きく根を張って大小の岩々を抱え込み、うっそうとした樹林をつくっています。苔むした岩塊の重なり、樹林の醸し出す四季折々の情景と静かさは、登山道を外れて行動することを自制させるに十分な神秘さを秘めています。



山頂部のコミネカエデ群落

コミネカエデ群落（コミネカエデ・ナナカマド群集）

頂上部は風当たりも強く、降った雨も岩隙にしみ込み、どちらかというと乾燥傾向にあります。ここでは、コミネカエデ、ナナカマド、ベニドウダン、リョウブなどが厳しい環境に耐えながら群落をつくっています。



コミネカエデの紅葉



うっそうと茂るブナの林冠



ブナ群落

ブナ群落（ブナ・シラキ群集）

山腹の大部分をおおっている群落で、ブナやミズナラは巨木に成長していることもあります。九州のブナ林は通常林床にスズダケが生育していますが、黒岳のように岩場に立つブナ林の林床ではツクシシャクナゲが優勢です。